

令和3年度

事業報告書

公益財団法人 静岡産業振興協会

目 次

<総 括>	1
1 公益目的事業	5
(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）	5
① 展示場及び会議室等の貸与	5
(2) 地場産業支援事業	8
① 新製品、新技術支援及びデザイン開発支援事業	8
② 人材養成、人材確保推進事業	11
③ 「産業フェアしずおか」開催事業	14
(3) 都市型産業支援事業	15
① 創業者支援事業	15
② マーケティング支援事業	19
③ 産学連携事業	22
④ 情報提供事業	25
⑤ 施設提供事業	26
(4) 静岡市中小企業支援センター事業	27
① 窓口相談等事業	27
② 専門家派遣事業	28
③ 新連携・地域資源活用プログラム等、利用支援事業	28
④ 中小企業等販路開拓支援事業	28
⑤ 制度融資関連事務	29
2 収 益 事 業（ツインメッセ静岡）	31
(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）	31
① 展示場及び会議室等の貸与	31
② レストランテナント及び飲料水自動販売機事業	32
3 公益と収益に共通する事業	33
(1) 利用促進事業（ツインメッセ静岡）	33
(2) 有料駐車場の管理・運営（ツインメッセ静岡）	35
(3) 施設整備・修繕等（ツインメッセ静岡）	36
4 ツインメッセ静岡開館 40 周年記念事業	37
(1) 地場産業フェスティバル	37
5 組織・人材づくりへの取組	38
(1) 組織内の人材育成	38
(2) 組織内の内部統制	38
6 新型コロナウイルス感染症拡大への対応	39
(1) 安全対策	39
(2) 開催支援対策（ツインメッセ静岡）	40
(3) ワクチン接種会場としての活用（ツインメッセ静岡）	40
(4) 主催事業の対応（産学交流センター）	41
(5) 施設利用への影響	42
7 理事会・評議員会	44
(1) 理事会	44
(2) 評議員会	45
参考資料	
◇ 展示場の利用状況	46
◇ 会議室の利用状況	49
◇ 年間来場者数	49
◇ 組織構成	50

<総括>

当協会が策定した中期経営計画（2019年度～2022年度）に掲げた目標の達成に向けて、静岡産業支援センター（ツインメッセ静岡）では「ツインメッセ静岡貸館事業」及び「地場産業支援事業」を、静岡市産学交流センターでは「都市型産業支援事業」及び「中小企業支援センター事業」を実施するとともに、本年度は、ツインメッセ静岡40周年記念事業として自主事業「地場産業フェスティバル」を開催した。

長引く新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ感染症」という。）の影響により、本年度も貸館利用において多くのキャンセルが発生したり、一部の事業で実施を見合わせるなどの対応をとったが、それらを除けば、コロナ感染症対策に取り組みながら概ね計画通り実施した。

ツインメッセ静岡の貸館事業では、コロナ禍の中、133件の催事のキャンセルがあったが、静岡市がコロナ感染症ワクチンの集団接種会場として北館大展示場を延べ125日間利用したこともあり、大展示場の利用率は前年度を大きく上回り、貸館収入は当初予算額を確保することができた。

地場産業支援事業では、本年度開講を予定していた「静岡 匠の技継承講習会（Tコース）」をコロナ感染症の影響や講師の事情により中止した。今後、地場産業支援における協会の役割などを再確認する中で、伝統技術の継承の取組についても改めて検討することとした。

また、「産業フェアしずおか」は40回目の節目を迎え、「メイドインしぞ〜か弁当」、「マングローナー」などの記念企画を盛り込み、2年ぶりに賑わいのあるフェアを取り戻し、アンケート結果では来場者や出展者から高い評価を得ることができた。

産学交流センターでは、各種講座等の実施にあたり、前年度に引き続きライブ配信や録画配信などのオンライン方式を中心に展開した。

コロナ禍における実施も2年目となり、参加者間の対話が必要なシリーズ物やワークショップなどでは、極力対面の機会を設けたり、対面とオンライン方式を組み合わせたハイブリッド方式を活用するなど臨機応変に対応することで、新たな事業運営のノウハウを習得できたことは大きな成果となった。

なお、中期経営計画の年度計画における実績の主なものは、次表のとおりである。

中期経営計画の年度計画における実績の主なもの

	令和3年度計画	実績（※評価）	説明等
ツインメッセ静岡の活用			
1	自主事業の開催準備	「地場産業フェスティバル」を開催 (◎)	ツインメッセ静岡開館40周年の記念事業として、令和4年度に予定していた自主事業を1年前倒しで実施した。
2	小展示場の利用率 39%以上	28.6% (△)	ゲーム、映像などのコンテンツ系催事など新分野への営業を試みたが、本年度中の新規獲得はできなかった。
地場産業支援			
3	静岡 匠の技継承講習会（Tコース）の新設・講習開始	令和3年度の開講を中止 (△)	対面式の実技、実習を主とした講習のため、コロナ感染症の影響及び予定講師の体調面を考慮し中止した。
4	「産業フェアしずおか」への新規地場産業出展者の確保 1者	新規地場産業出展者 5者 (◎)	従来の組合単位での募集に加え、事業者単位でも募集を行ったことが功を奏した。
都市型産業支援			
5	下記3項目の合計 数35件以上 ・新規創業者数 ・新商品開発 ・新事業進出 (清水産業・情報プラザ35件以上、 合計70件以上)	新規創業者数 31件 新商品開発 8件 新事業進出 7件 計 46件 (◎) (清水産業・情報プラザでは新規創業者数14件、 合計60件)	窓口相談を中心に新規創業者数は順調に推移したが、コロナ感染症の影響で、新商品開発や新事業進出は前年度を下回った。
6	産学共同研究委託事業における製品化件数2件以上	2件 (◎)	令和2年度委託分1件と令和3年度委託分1件が製品化された。
ツインメッセ静岡の老朽化、耐震対策			
7	南館大規模改修の実施設計完了及び 施工業者選定	・10月29日 実施設計完了 ・2月18日 工事請負契約締結 (◎)	令和4年5月下旬より南館耐震補強・大規模改修工事を実施し、令和5年4月末に完了予定。

	令和3年度計画	実績（※評価）	説明等
南館大規模改修時のツインメッセ静岡貸館対策			
8	利用者（リピーター）の日程調整を 90件完了	106件の日程調整を 完了 (◎)	全体112件のうち、 ・北館等にて予約71件 （うち小展示場8件） ・実施見合せ35件 ・未調整6件
南館大規模改修の財源確保			
9	南館大規模改修の 財源の確保	実施設計及び工事費 の全額を静岡市出資 金により確保 (◎)	市では、ツインメッセが“産業交流拠点施設”かつ“災害時の広域物資輸送拠点施設”という公益的な役割を担っていることを勘案し、出資金として拠出することとなった。
財政基盤の強化と健全な財政運営			
10	基本財産収入（ツインメッセ静岡） 4億4,000万円以上	貸館収入 3億7,669万円 駐車場収入 4,112万円 <u>計 4億1,781万円</u> (○)	前年度に続きコロナ感染症の影響によるキャンセルが発生したものの、ワクチン集団接種会場として、市による延べ125日間の利用があり、前年度（※）より収入は増加した。 ※令和2年度実績 貸館収入 1億7,270万円 駐車場収入 2,166万円 <u>計 1億9,436万円</u>
11	ツインメッセ静岡 の管理費支出額 （大型修繕を除く） 3億1,000万円以下	2億8,429万円 (◎)	令和3年度もコロナ感染症を考慮した予算を編成し、前年度（※）と同様に支出の削減を図った。 ※令和2年度実績 2億9,052万円
財政基盤の強化と健全な財政運営			
12	産学交流センター の施設使用料 2,300万円以上	2,096万円 (○)	前年度に続きコロナ感染症の影響によるキャンセルが発生したものの、7月から市による大会議室の連続使用があり、前年度（※）より収入は増加した。 ※令和2年度実績 施設使用料 1,877万円

	令和３年度計画	実績（※評価）	説明等
組織づくり・人材づくり			
13	再整備計画にある令和３年度分の各種規程の整備完了（セクハラ・パワハラ、情報公開、個人情報保護）	職場におけるハラスメントの防止に関する規程、情報公開規程、個人情報保護規程、特定個人情報取扱規程、保有個人情報等開示等取扱要綱、懲戒委員会要綱の制定 (◎)	静岡市の政策実現のパートナーとして、組織内の内部統制機能の充実を図るため、法令遵守や事務事業の適正な執行の推進に必要な規程等の制定を行った。

※評価の表示

◎＝達成（100％以上） ○＝ほぼ達成（90％以上） △＝未達成（90％未満）

1 公益目的事業

(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）

① 展示場及び会議室等の貸与

地域産業の経済活動支援や人材育成事業など、公益を目的とした事業のため、地場産業団体、地元中小企業や国、県、市などの行政機関に展示場及び会議室を貸与し、地元中小企業の振興に寄与した。

前年度から続くコロナ感染症の影響を受けて、引き続き一般企業等の利用は低調であったが、前年度中止となった「静岡ホビーショー」が、業者招待日を開催するなど、ウィズコロナに向けての光明もみえた。

また、コロナ感染症のワクチン接種を促進することが、疲弊した地域経済の回復への最優先事項であるとの考えから、市に対しツインメッセの活用を提言した。すでに予約していた利用者に対し日程や会場の変更について理解を求め調整した結果、7月中旬から11月下旬までと3月に、延べ125日間、集団接種会場として大展示場を貸し出すことが可能となり、地域経済回復への貢献の一端を担うことができたと同時に、キャンセルが続く展示場の有効活用にもつながった。

会議室は、ソーシャルディスタンスを確保するため、前年度に引き続き定員を減らしての貸与となったが、中小企業等の技術向上セミナー、資格試験、大学入試の会場や展示場利用関係者の控室などでの利用があった。

展示場における公益目的の催事件数は112件で前年度の89件と比較して23件の増加となった。また収入額から算出される公益目的事業比率は79.4%であった。

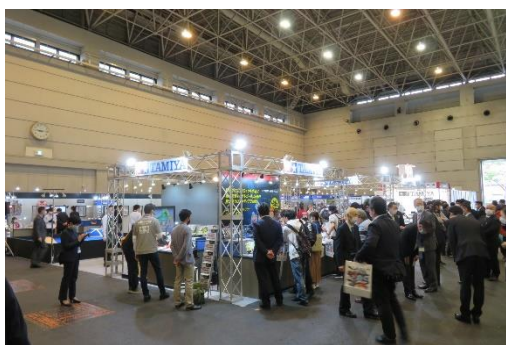
※コロナ感染症対応に係る展示場・会議室のキャンセル状況は42ページ参照

<主な展示場利用>

※ 地場産業団体、一般企業等の利用

催 事 名	使用期間
第59回静岡ホビーショー	5/12～14
静岡優良ツキ板展示大会（第65回、第66回）	6/15～17、3/7～9
THE解決展 in 静岡（機械、工具の見本市）	6/23～27
令和3年 静岡県保育士試験 筆記試験	10/22～24
令和3年度 2級土木施行管理技術検定	10/23～24
第36回全国優良ツキ板展示大会	11/9～11
ホビーのまちクリスマスフェスタ2021	12/9～12
介護福祉士国家試験	1/29～30

●国、県、市が民間へ委託した事業は、ここに分類した。



業者招待日のみ、2年ぶりに開催した、静岡ホビーショー



体験コーナーが充実したホビーのまち クリスマスフェスタ

※国、県、市等の利用

催 事 名	使用期間
令和3年度 静岡市職員採用試験	6/19～20
静岡県知事選挙葵区・駿河区開票区 開票	6/20～21
静岡市新型コロナワクチン集団接種会場	7/3～3/31のうち 125日間
登録販売者試験（一般用医薬品販売の国家資格試験）	8/31～9/1
参議院議員選挙葵区・駿河区開票区 開票	10/24～25
静岡・清水税務署合同確定申告	2/1～3/16



最大規模18レーンで実施された新型コロナワクチン集団接種会場

※コロナ感染症の拡大により中止となった主な催事の利用

催 事 名	使用期間
セブーンイレブン商品展示会	4/20～22
シズオカ [KAGU] メッセ2021	6/6～13
JT 将棋日本シリーズ プロ公式戦／テーブルマークこども大会	9/19～20
しんきんフェア静岡2021	10/12～13
TGCしずおか2022 by TOKYO GIRLS COLLECTION	1/5～9

<主な会議室利用>

催 事 名	使用期間（回数）
施工管理技士研修会	4/1～3/23（43回）
介護労働講習	6/1～11/9（94回）
自衛隊 静岡地方協力本部 採用試験	9/24～3/2（6回）
令和3年分静岡・清水税務署合同確定申告控室	2/4～3/16

成 果 目 標	結 果
令和2年度にコロナ感染症の影響により開催を取り止めたリピーター催事の再利用率80%以上	34.4%（33/96件）

(2) 地場産業支援事業

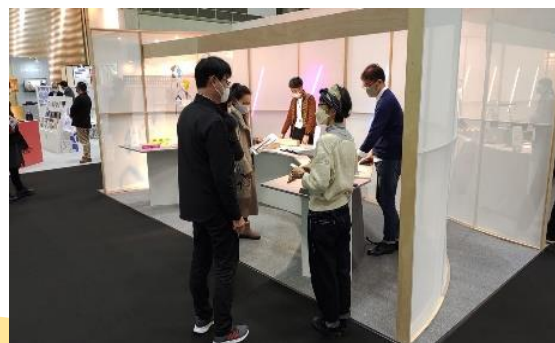
① 新製品、新技術支援及びデザイン開発支援事業

<ニューウェーブ「しずおか」創造事業>

地元製造業者の新商品開発へのチャレンジを支援するため、地元製造業者とデザイナーとのマッチングを行い、デザインの力を活用した新商品開発を行った。

前年度、コロナ感染症に係る“緊急事態宣言”発令の影響により展示発表ができなかった参加事業者6社が引き続き商品開発を行い、令和4年2月の「東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGN」で展示発表した。コロナ感染症のまん延防止等重点措置が発令されている状況で、例年の約7割の来場者数となったが、展示会内コンテスト「LIFE×DESIGN アワード」で、当協会展示ブースが平成30年度以来2度目となるベストブースデザイン賞を受賞したため反響は大きかった。

また、開発商品と開発メーカーの社会的価値の向上を目的としたGマーク（グッドデザイン賞）取得支援を行い、制度を利用した2者がGマーク取得に向け挑戦したが、いずれも落選し取得には至らなかった。



製造メーカー、プロデューサー、デザイナーのコラボにより開発した商品が展示された。
(ギフト・ショーブース)

【令和3年度開発商品】

※ 上段：参加企業
下段：参加デザイナー



岸本挽物
×
studioY0



(株) 山崎製作所
×
studioA27



西尾金庫鋼板 (株)
×
Junpei Haga Design



こぞう匣スタイル
×
RKDS



富士ゴム産業 (株)
×
(株) ライカアート



(有) 藤原木工
×
MURAMATSU DESIGN STUDIO

◆展示発表会

東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGN

- ・期 日 令和4年2月8日（火）～10日（木）
- ・会 場 東京ビックサイト

成 果 目 標	結 果
Gマーク取得商品1件（経営計画目標）	取得なし
新規参加者を2者獲得（経営計画目標）	令和2年度からの継続のため、新規事業参加者なし

<地場産業販路開拓・PR事業>

当協会の地場産業支援事業で開発、製作した製品のアフターフォローを行う事業で、過去の参加企業や団体、個人事業者等に対し、取扱商品の販路開拓やPRの場を提供し、継続的な支援を行っている。

本年度は継続5年目として、2月の「東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGN」にニューウェーブ「しずおか」創造事業との共同ブースを設け出展した。コロナ感染症に係る“まん延防止等重点措置”が発令されている状況で、例年の約7割の来場者数となったが、目標としていた新規取引先の開拓60件、商談（成約）件数20件に対して、新規取引先の開拓77件、商談（成約）件数22件の成果を上げることができた。

なお5月に出展を予定していた「インテリアライフスタイル」は、コロナ感染症の影響により、2年連続開催中止となった。



ニューウェーブ「しずおか」
創造事業と共同ブースで相乗効果

◆参加事業者（4社）

大日三協（株）、ZEROMISSION、松葉豊店、（有）日本スエーデン

◆出展展示会

東京インターナショナル・ギフト・ショーLIFE×DESIGN

- ・期 日 令和4年2月8日（火）～10日（木）
- ・会 場 東京ビックサイト

成 果 目 標	結 果
インテリアライフスタイル 新規取引先の開拓60件、商談20件	コロナ感染症の影響により開催中止
東京インターナショナル・ギフト・ショー 新規取引先の開拓60件、商談20件	新規取引先の開拓77件、商談22件

<若手職人支援プロジェクト>

静岡の伝統工芸、ものづくり産業の未来を担う若手職人を支援し、静岡の地場産業を全国に広めていくため、前年度まで実施していた都内での販売会での経験をもとに、自社及び自社商品の発信力を強化する2種類の勉強会を実施した。

◆勉強会【写真撮影のコツ、機材選びについて】

プロカメラマンの仕事に関して、使用機材や、身近な道具を使用する撮影方法について質疑応答を交えながら実施した。

- ・参加者 するがクリエイティブ 12名
- ・期 日 令和4年2月17日(木)
- ・会 場 ツインメッセ静岡 409 会議室
- ・講 師 山口有一 氏
(株式会社 LOCASTUDIO 代表)



プロの技術を体感
しながらの講義

◆勉強会【ECサイトの構築、立上げについて】

これからの時代の販売ツールの1つとなりつつあるECサイトについて、また、身近な成功例である合同会社 TEAM GLOBE と株式会社左京のECサイト立上げから現在に至るまでの取組について、1回目は事例をもとに対談形式で、2回目は1回目の質疑応答を座談会形式で実施した。

- ・参加者 するがクリエイティブ 12名
- ・期 日 令和4年2月24日(木)
・ 3月3日(木)
- ・会 場 ツインメッセ静岡 409 会議室
- ・講 師 稲垣達也 氏
(合同会社 TEAM GLOBE 代表)



ECサイトについて、率直な疑問、
質問が多数でした。

成 果 目 標	結 果
勉強会参加者の満足度 90%以上	勉強会参加者の満足度 100%

② 人材養成、人材確保推進事業

＜伝統工芸技術保存講習会＞

伝統工芸業界の後継者を対象に講習会を開催し、伝統技術の継承及び新技術の習得を支援した。

受講生のうち、木工の部に参加している細井敏之氏が「国展」に出品し工芸部奨励賞の受賞を果たした。

	漆器	竹工の部	木工の部	蒔絵の部	拭漆の部
開催日数	4 日	11 日	17 日	20 日	10 日
講 師	安藤嘉津夫 氏	大村俊一 氏	松島富蔵 氏	大内啓三 氏	鳥羽俊行 氏
受講者数	12 人	4 人	4 人	9 人	6 人
内 容	乾漆	りんこあみこうじょう 輪弧編格子状 ひご飾り	くりもの 刳物	丸型パネルへ の加飾	拭漆実習

講習会の授業風景
(拭漆の部)



入賞作
細井敏之氏作
「樺朱漆輪花盛器」



成 果 目 標	結 果
講習会制作作品の展示発表の場を年1回以上設定 (経営計画目標)	・ 地場産業フェスティバル内に展示ブースを設置 ・ 産業フェアしずおか内に特設ブースを設置(3回目) ・ 北館3階ラウンジに常設展示コーナーを設置

＜静岡^{たくみ}匠^{わざ}の技継承講習会(Tコース)＞

静岡特有の伝統工芸技術の継承とその技術を後世に伝えていく後継者の育成を図るための「静岡^{たくみ}匠^{わざ}の技継承講習会(Tコース)」の令和3年度開講を目指していたが、コロナ感染症の拡大状況や、講師の体調面などを考慮し中止した。

伝統工芸技術の継承の取組については、今後、地場産業支援における協会の役割などを再確認する中で、支援の仕方などについて改めて検討していく。

成 果 目 標	結 果
「静岡 ^{たくみ} 匠 ^{わざ} の技継承講習会(Tコース)」の新設・講習開始(経営計画目標)	令和3年度の開講を中止

<静岡ものづくり支援事業>

地場産業におけるものづくり関係者を対象に、地域産業の抱える課題の解決につなげるための講演会及び講座の開催、展示会への出展を実施した。

◆公開講演会

静岡の木工業に関わる方を対象に、令和元年度に講演を行った静岡大学 横田宏樹 准教授に再度、木工に関する講演を依頼した。

前回からこれまでの間に新たに取り組まれたプロジェクトや木工他産地の取組事例の紹介など、静岡の木工業界に参考となる講演であった。

講演後の質疑応答では予定時間を越えて意見交換が行われるなど、参加者にとって大きな刺激となっていた。

- ・期 日 令和4年2月18日（金）
- ・会 場 ツインメッセ静岡 409 会議室
- ・テーマ 家具の「価値」と「価値づけ」を考える
～なぜ木の家具は良いのか～
- ・講 師 横田宏樹 氏
(静岡大学人文社会科学部
経済学科准教授)
- ・参加者 18 名



講演会の様子

◆実践講座

「シズオカ[KAGU]メッセ」の中止や世界的なウッドショックなど、厳しい状況に置かれている家具業界の関係者を対象に、コロナ感染症の影響で変化のあった消費者マインドを学び、今後の販売戦略に役立てるための講座を企画した。

講師には、これまで多数のマーケティングコンサルタントの実績がある株式会社販売促進研究所 杉山浩之代表を招き、「世の中の動きとマーケティングの話」「withコロナ時代に向けたリブランディング」「今後、どう売るか？」について、グループワークを交えながら連続3回の講義を実施した。

- ・期 日 令和4年2月22日（火）・3月1日（火）・7日（月）
- ・会 場 ツインメッセ静岡 409 会議室
- ・テーマ 「withコロナ時代に向けた
リブランディングと販売戦略を学ぶ」
- ・講 師 杉山浩之 氏
(株式会社販売促進研究所 代表)
- ・参加者 5 名



グループワークを交えた
実践講座

◆技術プロモーション支援

商品の製作や販売面の視点とは別に、職人の技術に着目し、職人が保持している技術そのものをPRすることを目的に、3月に京都・みやこめっせで開催された展示会「京都インターナショナル・ギフト・ショー WAZA 博」に初めて出展した。事前リサーチから関西圏での需要を考慮して、「木工技術」に重点をおき、「木工挽物」と「木工指物」の技術を紹介し、木地製作や試作の具体的な依頼を受けるなど、関西圏へ静岡の木工技術をPRすることができた。

京都インターナショナル・ギフト・ショー WAZA 博

- ・期 日 令和4年3月9日（水）・10日（木）
- ・会 場 みやこめっせ
- ・出展企業 岸本挽物（木工挽物）
KOZOU HAKOSTYLE（木工指物）



静岡の木工技術をPR

成 果 目 標	結 果
講演会の参加者数 30 名以上	講演会の参加者 18 名

③ 「産業フェアしずおか」開催事業

本年度の「産業フェアしずおか 2021」は、1982 年の第 1 回開催から数え 40 回目の節目を迎え、テーマを「“G o N e x t !” ～ありがとう！40 回、つなげよう！S H I Z U O K A の未来へ～」として万全なコロナ感染症対策のもと開催した。記念企画として、静岡産の食材をふんだんに使用して製作した「メイドインしぞ〜か弁当」の販売、マグロ水揚げ量日本一の清水から「マグロコーナー」の初参加、中部横断自動車道静岡山梨間全線開通を記念した「エリア物産展」など、従来の産業フェアに加えてバラエティに富んだ内容が盛り込まれ 40 回記念に華を添えた。

ワクチン接種が進み、心配されていたコロナ感染症の感染状況が小康状態となったこともあり、入場者数は 2 日間で 30,600 人と前年の 2 倍を超え、2 年ぶりに賑わいを取り戻し、アンケート結果では入場者や出展者から高い評価を得ることができた。

また、協会が出展者の募集を担当する「地場産業ゾーン」において新規出展者の確保に取り組んだところ、従来の組合単位に加え事業者単位での募集も行ったことが功を奏し、これまで参加したことがなかった 5 者が出展した。

- ・期 日 令和 3 年 11 月 27 日(土)・28 日(日)
- ・テーマ 「G o N e x t !” ～ありがとう！40 回、つなげよう！S H I Z U O K A の未来へ～」
- ・会 場 ツインメッセ静岡
北館・南館大展示場
- ・出展団体 146 団体
- ・入場者数 30,600 人

北館大展示場の様子



初登場！まぐろ裁断ショー



40 回記念企画「メイドインしぞ〜か弁当」

成果目標	結果
・「次回もフェアに来たい」という来場者のアンケート回答率 90%以上	回答率 98.7%
・新規地場産業出展者の確保 1 者（経営計画目標）	新規地場産業出展者 5 者

(3) 都市型産業支援事業

静岡市産学交流センターの指定管理業務を受託（※１）し、次代を担う本市を代表する産業を生み出すこと、及び、世界、全国に挑戦する中小企業の振興を図ることを目指して、創業支援、マーケティング支援、産学連携など各種事業を行った。

中期経営計画に掲げた成果指標である新規創業者数、新商品開発件数、新分野進出件数は、年度目標の合計 35 件を上回る 46 件の成果（※２）を上げた。

また、コロナ禍の中、セミナー等の多くはオンライン方式で実施したが、必要に応じて対面式や対面とオンライン方式を組み合わせたハイブリッド方式を活用するなど、臨機応変に対応した。

※１ 平成 30 年度からは清水産業・情報プラザの管理者である静岡商工会議所と施設管理共同事業体を結成し受託

※２ 清水産業・情報プラザ 14 件を合わせると 60 件

① 創業者支援事業

資本や人材等の経営資源に乏しい創業者がスムーズに事業を開始し、独り立ちするための支援として、経営相談・指導及び事業機会拡大のための各種事業の企画・実施並びに創業者支援セミナーを開催した。

<創業・経営相談>

創業希望者や創業後間もない事業者及び中小企業者等を対象に、創業や経営に関する悩みや課題解決に向け、プロジェクトマネージャーをはじめとする支援スタッフ・窓口相談員が経営相談、事業指導を行った。

成 果 目 標	結 果
相談件数 200 件	260 件

<大学等起業家育成支援事業>

大学や高等学校等の学生を対象に、創業マインドを醸成するため「ビジネス実践講座」を実施した。なぜ創業について学ぶのか、ビジネスにおけるアイデアの出し方、事業化・資金計画の策定の仕方等の基礎的知識の習得の場を提供することで、学生にとって、選択肢としての「創業」や、「就業」「会社の仕組み」等への理解を深める機会となった。

静岡デザイン専門学校での
授業風景



実施大学等の名称	実施回数	参加者数
静岡大学	3回	9名
静岡県立大学	2回	10名
静岡英和学院大学	3回	9名
常葉大学	3回	22名
静岡デザイン専門学校	8回	57名
静岡県立静岡商業高等学校	3回	21名
静岡県立静岡農業高等学校	2回	53名
静岡県立科学技術高等学校	1回	41名
静岡県立駿河総合高等学校	3回	45名
静岡市立高等学校	1回	327名
常葉大学附属橘高等学校	4回	444名
合計（11校 15学科）	33回	1,038名

●この他に、先方からの
個別の依頼により、以下を
実施。

- ・駿河総合高校3年生
「BCPの入門講座」

成果目標	結果
大学等5校、高校5校の参加者を確保	実施校：大学等5校（7学科） 高校 6校（8学科）

<創業者育成支援室運営等事業>

平成30年3月末に『SOHOしずおか』が解散したことに伴い、それまで行っていた事業を同年4月以降、当センターが引き継いでいる。

◆ビジネスプランコンテストの実施

静岡県内で新規に事業展開を目指す事業者及び学生を対象に、起業家精神の高揚と柔軟な発想力・独創性に富む人材の発掘、中小企業における新製品・新サービス開発促進の支援を目的として、「しずおかビジネスプランコンテスト」を開催した。

この事業は、ビジネスプランの作成から事業の立ち上げまで、一貫した支援体制が特徴となっている。

コロナ禍の中、まん延防止等重点措置の発令もあり、最終審査会において県外発表者2プランがZoomでの参加となった。また一般視聴者向けにはYouTubeライブ配信を行うなど、前回に引き続きオンライン方式での開催となった。

今回は第20回記念大会として「記念大会特別賞」、「静岡銀行賞」、「静岡鉄道賞」を新設したことや、積極的に働きかけを行ったことで、これまでで2番目に多い101件の応募があった。



審査員とコンテスト入賞者による記念撮影

○ 開催スケジュール

- ・ 募集期間 R3. 6/10(木)～10/20(水)
- ・ 書類審査 R3. 11/2(火)
- ・ プレゼン審査 R3. 12/3(金)、12/4(土)
- ・ 最終審査会 R4. 2/15(火)

○ 応募件数等

- ・ 応募件数 101 件（一般部門 30 件、学生部門 71 件）
- ・ 入賞件数 9 件（一般部門 5 件、学生部門 4 件）



学生が考えたビジネスプランの発表を熱心に聞く受講者たち

◆創業者育成室の運営

創業者の事務所開設の経費負担や創業後の経営を支援するため、インキュベーター施設である創業者育成室の効果的な運営管理を行った。

◆ブレイクスルーセミナー

創業希望者や創業者、中小企業者を対象に、課題解決や事業の躍進などを目的として、専門家や経営者等を講師に迎え、“気づき”のためのセミナー（勉強会）を実施した。

講座名	内 容	参加者数
ブレイクスルーセミナー (2回)	・「価値創造型のビジネスデザイン技法 ～突き抜けたアイデアを超速で事業化する～」 講師：谷中修吾 氏（ビジネスプロデューサー） ・「子どもに家業を引き継がせたい人必見！事業承継セミナー」 講師：藁科憲佑 氏（(株)RESTORE 代表取締役）／ 峯尾喜一 氏（ヒューマンライト経営相談事務所）	延べ 135 名
入居者セミナー (3回)	・「「家計管理」と「つみたて投資」で、生活満足度を落とさずに、毎月 5 万円の貯金・資産運用ができる方法とは」 講師：中村俊也 氏（キャリアとお金の教育家） ・「～ネット通販の実例・サイト運営の基本・SNS 連携活用等について～」 講師：朝原伸之 氏（オフィスあいサポート代表） ・「インターネット トラブル対策セミナー」 講師：浅井裕貴 氏（新清水法律事務所代表）	延べ 101 名
勉強会 (1回)	・これだけは知っておきたい税務の基礎知識 講師：坂口陽子 氏（坂口陽子税理士事務所代表）	20 名

令和3年7月開催
ブレイクスルーセミナー
谷中修吾氏講演



◆女性限定「起業スタートアップ塾」（2回開催/参加者延べ37名）

＊すべて対面式で開催

創業間もない女性、創業に関心のある女性に対し、SNSの活用方法を支援するため、「女性の創業」に特化したセミナーを開催した。地元で活躍する女性起業家をゲスト講師に迎えて意見交換を行うほか、ビジネスにおけるSNSについての講義を行った。

・ゲスト講師：押尾亜哉氏（アンズスマイル代表）



女性限定「起業スタートアップ塾」

熱意ある女性達が集まり、
ソーシャルディスタンスを
保って開催した。

◆創業スタートアップ講座（全6回連続講座/申込者30名） ＊男女共参加可

＊第1回～3回：対面式／第4回：録画配信／第5～6回：オンライン（Zoom）

（会場参加者延べ110名 ／ 視聴回数 延べ79回）

創業予定者を対象に、B-nest 経営応援団（中小企業診断士）による創業セミナーを開催した。マーケティングの基礎知識や資金計画の立て方、ビジネスプラン作成等の講義のほか、毎回、当センターと関わりの深い起業家を招き、創業前後の実体験を語ってもらった。

・ゲスト講師：杉山耀平氏（株Bitters Club 代表）、
久住健人氏（株ベースプロジェクト代表）、
前田沙紀氏（sweet atelier bloom 代表）、
山本悠馬氏（静岡大学学生）

◆女性限定「女性経営セミナー」（1回開催/参加者延べ12人）

大手企業子会社の代表取締役を務めた女性を講師に招き、女性経営者向けの「女性による組織構築」「女性の人生とビジネス」にフォーカスしたセミナーを初めて実施した。参加者各々が講義内容を自分事に落とし込むことで、改めて働き方や管理手法を見直す機会になったと好評だった。

なお、参加者からの強い要望もあって、後日フォローアップミーティングを開催した。

・講師：佐戸井麻美 氏（オフィスミューモア代表）

成 果 目 標	結 果
ビジネスプランコンテスト 応募件数 80 件	101 件
女性創業者を 10 人以上輩出（経営計画目標）	11 人

② マーケティング支援事業

創業者、中小企業者、従業員に対し、マーケティング発想を醸成する目的で、マーケティングに必要なスキル習得を支援する「マーケティング支援講座」等を開催した。

＜マーケティング支援講座（セミナー・研修・講座の企画・実施）＞

コロナ禍のため、一部のセミナーを除き、オンライン方式で実施した。スタッフがオンライン方式での運営に慣れてきたことで、参加者数の増加、また参加者の満足度向上につながった。今後も、オンライン方式でのセミナーを積極的に活用していく。

講 座 名	内 容	参加者数
マーケティング支援講座（8回）	新たな市場調査スキルからネットショップ、集客に至るまで、バラエティに富んだ講座を実施し、よりタイムリーで実践的な内容を中心に学習及び交流する機会を提供。 ・「おいしい世界ブランドをつくろう」 講師：岩崎邦彦 氏（静岡県立大学教授） ・「売り込まずに売れる WEB 集客の仕組み作り」 講師：高橋真樹 氏（㈱ラブアットフリー） ・「先生業のビジネス開発集客セミナー」 講師：五十嵐和也 氏（㈱エクスイルパートナーズ） ほか5講座	延べ 837 名

特別編（7回）	・「BCP 策定セミナー」 ・「IT 活用セミナー」 ・「デザイン思考ワークショップ」 ・「リーンスタートアップ(※1)の理論と実践」 ・「リーンローンチパッド(※2)実践編」3回	延べ 145 名
---------	--	----------

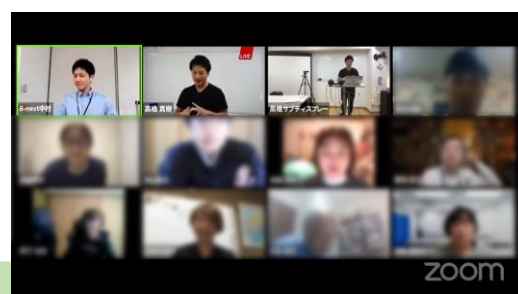
※1 新事業で、早く安く失敗して迅速に軌道修正しながら顧客開発モデルを構築すること

※2 新事業で、仮説検証を繰り返しながら効率的に事業を立ち上げる手法

なお、リーン(lean)とは、「筋肉体質の」、「無駄がない」という意味



リーンローンチパッド実践ワークショップ



マーケティング支援講座の様子

成果目標	結果
講座受講者による満足度割合 90%以上（経営計画目標）	96%

＜静岡おみやプロジェクト＞

地域資源を活用した“静岡の新しいお土産”の開発を目指し、静岡市内の食品事業者がマーケティングのノウハウやスキルを学びながら、約10ヵ月をかけて商品開発を行い、販路開拓から販売まで当センターが支援した。

第13回目となった本年度は、「おみやげ New Normal!～2021年版既存商品アップデート～」と題して、既存商品の内容や伝え方を、消費者の変化や現代のトレンドに合わせてブラッシュアップ（リブランディング）させるため、主婦モニターや食品関連バイヤー等からのヒアリングを実施し、よりお客様に選んでいただける商品へと進化させた。

また、本年度初めてメニューに加えた「売り場見学会」では、コロナ禍等により変化する売り場と消費者の購買行動を実地で体感し、売り手の生の声を聴くなど、今後の商品展開を考える機会を提供した。



静岡おみやプロジェクト
戦略開発シミュレーション



静岡おみやプロジェクト
売り場見学会

◇取組内容

- ・勉強会／6回 ・個別相談会／10回
- ・消費者モニターによる試食評価会／1回
- ・専門家による試食評価会／1回
- ・成果発表会

開催日：令和4年3月2日 場所：静岡市産学交流センター

一般向けオンライン配信およびバイヤー招致による交流会

◇販売促進関連事業

- ・松坂屋静岡店でのパネルおよび商品サンプル展示

実施期間：令和3年8月4日（水）～8月10日（火）

対象：令和元年度、令和2年度開発商品

- ・地場産業フェスティバル（ツインメッセ40周年記念事業）参加

開催日：令和3年8月13日（金）～8月15日（日）

出店者：「再発見！ 静岡おみやげ百貨店」と題して、公募により「静岡おみやプロジェクト」参加事業者7社、プロジェクト参加者以外の市内食品事業者8社が参加。

- ・エスパルスドリームプラザや新東名サービスエリア等で試食を伴う販売会
前年度に続き、コロナ感染症の影響を受け中止

成 果 目 標	結 果
新商品開発 6件	商品リブランディング 5件（※）

※当初審査では6社が採択されたが、プロジェクトが進行する中で1社が辞退したことで最終開発商品は5品となった。

【令和3年度開発商品】



(株)レストランフランセ
／フランセ特製プリン



(株)伊奈製菓／アジロ



(有)西尾商店／西尾のかけろおだし



(株)藤七／しずおか小判天



(株)マルカイ (有)カネナカ商店
／しらすメチャノリチップス

③ 産学連携事業

大学等(学术界)が保有する高度で専門的な知識や技術等を、市内の企業(産業界)が活用できるよう橋渡しをした。

＜産学連携コーディネータによる産学連携推進＞

産学連携コーディネータによる相談や、大学・研究機関または企業への橋渡しを実施した。

今後も更なる支援強化に向け、引き続き各大学と産学連携コーディネータとの連携強化を図り、マッチング件数の増加に努めていく。



地域企業の技術的相談に対応する
コーディネータ

業 務	内 容	開催回数等
産学連携コーディネータ相談	企業が抱える問題、課題等への相談	相談件数 100 件
静岡地域産学連携コーディネータ会議	静岡大学、静岡県立大学、東海大学海洋学部、(公財)静岡県産業振興財団、静岡県工業技術研究所、静岡市清水産業・情報プラザ、静岡市経済局産業振興課、マリンオープンイノベーション機構、静岡市産学交流センターのコーディネータとの情報交換	全 6 回
事例セミナー、講演会の開催	・第 134 回「産学官交流」講演会・交流会 W E B 配信で実施した。 発表者：静岡理工科大学	参加 33 名
企業及び大学見学会の開催	・東海大学海洋学部（食品科学科後藤研究室） ・日建リース：三保地下海水を利用したサーモン養殖場 ・テクノスルガラボ(株)：最新理化学分析機器等の見学	参加 13 名 参加 13 名 参加 33 名

成 果 目 標	結 果
相談件数 100 件	100 件

<地域課題に係る産学共同研究委託事業>

静岡市における地域の産業戦略の課題を解決することを目的に、静岡市が重点的に振興を図る戦略産業分野(※1)を対象として、中小企業者や各団体が大学等と共同で行う新製品の開発・事業化、新たな事業への進出、社会・経済・環境の変化に対する取組等（調査・研究・開発事業等）を支援した。

なお、令和4年3月18日に実施した成果発表会は、コロナ感染症の影響で、会場での発表とオンライン方式でのオンデマンド配信を並行して行った。

- ※1 ①食品・ヘルスケア ②海洋・エネルギー ③観光・ブランド
④文化・クリエイティブ ⑤清水港・ロジスティクス
⑥その他地域活性化・新産業創出に関連する分野

研究事業		分野	企業 (中心団体)	大学
基礎コース ※2	静岡産柑橘類から採取した精油（リモネン接着剤）とプラモデルを用いた、ものづくり体験の推奨事業	⑥	(有)アスカモデル	静岡大学農学部 生物資源科学科
	清水極上船凍メバチマグロのブランディング	①②	清水魚(株)	東海大学海洋学部 水産学科
	人工海藻シーラントによる漁場造成手法の開発	②⑥	(株)東海アクアノーツ	東海大学海洋学部 環境社会学科
	ポストコロナのグリーンツーリズムを推進する新たなこんにゃく加工品の開発	①⑥	水見色きらく市企業組合	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部 生産科学科
応用コース ※3	三保の地下海水を活用したアカモクの二期作と完全養殖の研究	②⑥	おいしい産業(株)	東海大学海洋学部 水産学科
	サーマル（熱赤外）カメラ搭載ドローンによる感染初期の松枯れ調査手法と対処方法の開発	⑥	昭和設計(株)	静岡県立農林環境専門職大学短期大学部
発展コース ※4	音楽アプリにおける認知機能評価の確立とビジネス展開	⑥	インフィック(株)	静岡文化芸術大学 デザイン学科

- ※2 基礎コース（委託限度額 100 万円）では、主に、「調査研究や技術・サービスの向上」に係る課題で、新たな提案と具体策が見込め、将来性が期待できるものを採択した。
- ※3 応用コース（委託限度額 200 万円）では、主に、「ものづくり系」に関する課題で、基礎的な研究が既にできているもので、事業終了時に必ず試作品ができ、数年内に実用化（商品化）が見込めるものを採択した。
- ※4 発展コース（委託限度額 100 万円）では、基礎コースまたは応用コースを経験した後、数年内の課題で、研究が既に終了し、実用化（商品化）を目的とするものを採択した。

成果目標	結果
製品化件数 2 件以上（経営計画目標）	2 件（※5）

※5 製品化の内訳：

- ・ オリジナル乳酸菌を活用した「静岡チーズ」
（うしづまチーズ工場：令和4年4月発売予定――令和2年度委託分）
- ・ こんにゃくアイスクリーム及び関連商品
（水見色きらく市：令和4年5月発売予定――令和3年度委託分）

④ 情報提供事業

当センターの認知度の向上と利用者の拡大に向けて、起業者及び中小企業者等に対して、当センターや他の産業支援機関等の情報を分かりやすく提供した。

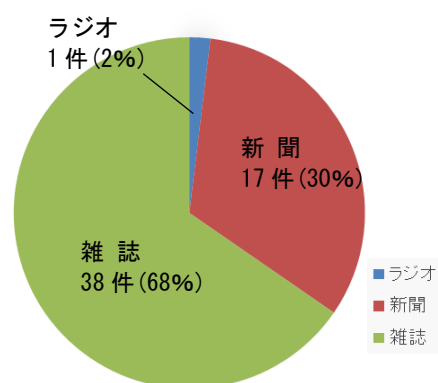
◆ホームページ・メールマガジン・広報誌等による広報事業

当センター、国・県・市等の各行政機関及び産業支援団体等の産業支援に関する情報について、ホームページ、メールマガジン、ブログ、Facebook、Youtube や広報誌「B-nesFACE」等の媒体により、分かりやすくタイムリーな情報発信を利用者に提供したほか、メディアへの当センターの掲載回数増にも注力した。

また、各種事業においてメルマガ登録を推進した結果、特に、テーマが時流に沿った内容で受講者の関心が高いオンライン講座の増加により、メルマガ新規登録者数が増加した。

そのほか、前年度に引き続き、ホームページのスマホ対応を実施するなど、利用者の利便性の向上を図った。

メディアへの掲載件数と割合



成 果 目 標	結 果
メールマガジン新規登録件数 250 件	415 件

(参考)令和3年度末メルマガ登録件数 3,011 件 (前年比+224 件)

◆ラウンジ等における情報提供

当センターのラウンジ等にて、「静岡おみやプロジェクト」「産学共同研究委託事業」等で新たに開発された製品の展示や、それらに関する情報を提供した。

また、国・県・市等の各行政機関、他の産業支援団体及び大学等の産業支援施策の情報の一元的な提供にも努めた。

⑤ 施設提供事業

◆貸会議室業務

中小企業や大学等の打合せや研修会、講演会等に施設の貸出しを行なった。

コロナ感染症の影響によるキャンセルが 100 件発生したものの、7 月から市による大会議室の連続使用（静岡市コ・クリエーションスペース）があり、使用料収入は前年度（1,877 万円）より増加した。

- ・利用件数 1,642 件
- ・開館時間 月曜日～土曜日 9 時 30 分～22 時 00 分

※ただし、休館日（日曜日、国民の休日及び 12 月 28 日から翌年 1 月 5 日）を除く。

◆会議室の利用状況

区分 年度	開館日数 (日)	来場者数 (人)	来場者数内訳(人)			利用 コマ数	総 コマ数	平均 利用率※ (%)
			会議室 利用者数	相談者数	日平均			
R 3	290	25,484	24,537	947	88	4,857	11,600	41.9

※平均利用率＝利用コマ数÷総コマ数（各室 1 日 5 コマ×全 8 室×開館日数）×100

成果目標	結果
産学交流センターの施設使用料収入 2,300 万円 以上（経営計画目標）	2,096 万円（※）

※コロナ感染症対応に係る会議室のキャンセル状況は 43 ページ参照



静岡市コ・クリエーションスペース

企業や行政が、様々なステークホルダーと協働して
共に新たな経済価値を創造することを目的として、
令和 3 年 7 月に設置（運営事業者：静岡鉄道㈱）



(4) 中小企業支援センター事業

静岡市から中小企業支援センターの指定法人の指定を受け、中小企業が抱える様々な課題に対して診断・助言を行うなどの各種事業を実施した結果、都市型産業支援事業との連携効果もあって、中期経営計画で設定した新規創業者数等の目標を上回る成果を上げた。

① 窓口相談等事業

中小企業者や創業を目指す事業者の課題解決のために、経営の専門家である中小企業診断士で構成する窓口相談員（B-nest 経営応援団）を中心に、経営相談、マーケティングアドバイス、創業相談を行った。

創業スタートアップ講座の実施、他の事業から窓口相談への誘導のほか、ホームページやメールマガジン等のツールを使い本事業の周知に努めた。また、窓口相談へのさらなる誘導策として、各診断士によるミニワークショップ「ちょこっとアフター6勉強会」（※1）を毎月開催した。

※1 「ちょこっとアフター6勉強会」…各診断士の得意・専門分野をテーマとした小勉強会
原則月1回、18時より開催（1時間程度）

◆B-nest 経営応援団による相談

・窓口相談員の配置

5名（経営、資金計画、販路開拓、現場改善、キャリア開発等）

・開設時間

月曜日から金曜日 13時から19時（産学交流センター）

土曜日 10時から17時（御幸町図書館）

・相談件数

597件（令和2年度666件、令和元年度777件、平成30年度590件）

相談件数が令和元年度に大幅に増加したのは、同年度より本事業が「特定創業支援等事業」（※2）に認定されたことが主な理由であるが、令和2年度からはコロナ感染症の影響により減少に転じている。

※2 国の認定を受け、創業に関する各種特典（法人設立時の登録免許税の軽減、静岡市制度融資に係る保証料の一部補助等）が受けられる事業。

成 果 目 標				結 果			
下記3項目の合計数35件以上（経営計画目標）							
新規創業者数	25件			新規創業者数	31件		
新商品開発	5件			新商品開発	8件		
新事業進出	5件	計	35件	新事業進出	7件	計	46件

② 専門家派遣事業

中小企業者が抱える様々な課題の解決に向けて、適切な診断・助言を行うため、当センターに登録された民間の専門家を事業者に派遣した。

- ・実施分野 経営全般・情報化・マーケティング・デザイン等
- ・実施回数 [一般枠] 99回／22社
[創業枠] 27回／7社 合計 126回／29社
- ・登録アドバイザー（専門家） 112名

成 果 目 標	結 果
新たに5人の専門家を確保（経営計画目標）	新規専門家登録者数 5人 （うちIT関係相談可 5人）

③ 新連携・地域資源活用プログラム等、利用支援事業

国が進める「新連携」や「中小企業地域資源活用プログラム」等の国庫補助制度の採択に向け、静岡市における地域資源や企業の技術・ノウハウを活かした新製品・新サービスの開発、事業化の推進について、他の支援機関と連携を図りながら支援した。

・地域資源活用プログラム支援

大川企業組合 ----- 地元食材を活用した新商品開発（チョコレート）

金栄船舶装備株式会社 ----- バーベキュー事業新規着手に伴うWEBサイト改修

企業組合こがねの湯 ----- コロナ感染症対策としての木質パーティションの開発

有限会社石井育種場 ----- 「新規ケール品種」の加工食品研究

④ 中小企業等販路開拓支援事業

コロナ禍のもとでの販売促進支援事業として、中小事業者・個人事業者の当面の課題から、マーケティング分野におけるDXへの取組を支援する目的で、セミナーを企画・開催した。

【中小企業・個人事業者向け販売促進DXセミナーシリーズ 全4回】

- ① 10月29日 「オンライン常態化」のなかで中小事業者が考えるべきこと
講師：島袋孝一氏（㈱ヤプリ マーケティングスペシャリスト）
- ② 11月5日 ネットと実店舗〈ONとOFF〉を融合させる「D2Cブランド」の構築とは？
講師：河野貴伸氏（㈱フラクタ 代表取締役）
- ③ 11月19日 ブランド構築とオンライン活用の実践
事例紹介による取組み視点の明確化（講師：島袋氏・河野氏）
- ④ 12月2日 D2Cの疑問解消!! 目の前の課題にお答えします!!
講師を交えた交流・相談会（講師：島袋氏・河野氏）-----対面開催

●参加者延べ114名 満足度93.6%

【個別テーマによるDX関連セミナー】

- ⑤ 2月1日 Web集客の失敗と落とし穴
講師：中山陽平氏（㈱ラウンドナップ 代表取締役）
- ⑥ 2月9日 Webで店舗へ集客！ Google マップから来店を生み出す方法とは？
講師：永友一朗氏（永友事務所 代表）
- ⑦ 2月24日 ECサイトで選ばれる商品設計と販促活動実践例
講師：杉山浩之氏（(株)販売促進研究所 代表）
日本大学 水野学教授、
学生：池上日菜子さん、村上優衣さん

●参加者延べ180名 満足度94.2%



DX推進セミナー（オンライン開催時講師・河野氏）

成果目標	結果
セミナー開催回数 4回以上	7回
販売会開催回数 1回以上	0回（※）

※コロナ禍のため、対面となる販売会は見合わせ、販売・DX関連セミナーを実施した。

⑤ 制度融資関連事務

中小企業者が資金調達のために利用する「中小企業融資制度」の受付事務を静岡市から受託し実施した。

令和2年度は、コロナ感染症の影響で売上等が減少した企業等に対する資金繰り支援に係る「保証」受付事務が大量に発生したのに対し、本年度、保証申込件数は減少したものの、令和元年度以前に比べると高水準にある。

なお、静岡市の制度融資受付額は、産業振興資金や設備投資強化資金等の増加により、前年度実績を上回った。

- ・融資受付件数 588件（前年度 490件）
- ・申請金額 3,340,934千円（前年度 2,902,623千円）

【申請受付内訳】

制 度	件数(件)	金額 (千円)
小口資金	13	41, 500
短期経営改善資金	280	1, 566, 650
産業振興資金	252	1, 405, 835
創業支援資金	12	43, 288
設備投資強化資金	23	220, 561
事業承継支援資金	5	48, 500
桜えび不漁緊急対策資金	3	14, 600
静岡市制度融資 小計	588	3, 340, 934
保証※	1, 544	
合 計	2, 132	3, 340, 934

保証は認定事務のみ

※保証の内訳

・セーフティネット保証４号	848 件 (5, 076 件)
・セーフティネット保証５号	326 件 (1, 992 件)
・危機関連保証	370 件 (6, 581 件)

計 1, 544 件 (13, 649 件) () 内は前年実績

2 収益事業（ツインメッセ静岡）

(1) 産業及び地域の振興・交流拠点事業（ツインメッセ静岡）

① 展示場及び会議室等の貸与

当協会の経営基盤の安定化を図るとともに、静岡市のMICEの拠点として地域の活性化を推進するため、公益目的以外(収益事業)にも展示場及び会議室を貸与した。

本年度もコロナ感染症の影響を大きく受けたが、前年度コロナ感染症の影響により開催できなかった「C i S S決算感謝フェア」「輸入車アウトレットフェア」「Pet博2022」などの催事は、感染対策を十分に実施した上で開催することができた。

会議室は、引き続き定員を減らしての貸与となったが、企業の社員研修や商品説明会などに幅広く活用されるなど、徐々に利用が戻りつつある。

展示場における催事件数は121件で前年度の98件と比較して23件増加した。また、収入額から算出される収益事業比率は20.6%であった。

<主な展示場利用>

催 事 名	使用期間
輸入車アウトレットフェア	7/9～11 2/18～20
静岡伊藤忠ファミリーフェア	7/30～8/1 12/17～19
ミネラル ザ ワールド in 静岡 秋の天然石祭り2021	11/4～7
CAMPUS COLLECTION 2021	11/5～6
新日本プロレス静岡大会	12/5 3/17
C i S S決算感謝フェア	3/5～7
Pet 博 2022	3/18～21



コロナ禍でも輸入車販売は好調。活発な商談が行われた。



ペット用品販売や小動物と触れ合える場を提供した。

<主な会議室利用>

催 事 名	使用期間（回数）
外壁塗装教室 市民セミナー	4 / 3 ～ 3 / 12 （13 回）
シャローム健康教室	4 / 6 ～ 3 / 22 （32 回）
ジュネス通商会社説明会	4 / 14 ～ 3 / 27 （46 回）
プレナス ほっともっと会議	4 / 20 ～ 3 / 16 （20 回）

② レストランテナント及び飲料水自動販売機事業

テナント方式によるレストラン、飲料水等の自動販売機、コインロッカー等を設置して、施設利用者・来場者の利便を図るとともに収益の確保に努めた。

サービス施設・設備	数量等	サービス施設・設備	数量等
レストラン	1 店	コインロッカー	31 箱
飲料水自動販売機	31 台	コインコピー機	1 台



3 公益と収益に共通する事業

(1) 利用促進事業（ツインメッセ静岡）

静岡市のMICE推進の中核施設の役割を担う拠点として、にぎわいと活力ある地域づくりに貢献するため、「第1次営業戦略（令和元年度～4年度）（V字回復するために）」（平成31年3月作成）をベースに南館大規模改修時の貸館対策や共同誘致営業などに取り組んだほか、自主事業の開催にも取り組み、施設利用率の向上を目指した。

① 第1次営業戦略に基づく取組

<【戦略Ⅰ】南館大規模改修時の貸館対策>

令和4年度は南館大展示場が大規模改修により利用できないため、その利用者をできる限り北館大展示場等へ移すための日程調整を行った。コロナ禍の中、催事自体が取り止めになったケースもあったが、利用者の希望に沿う調整を心掛けた結果、令和4年度の調整対象催事112件に対し、予定を上回る106件の調整を終え、そのうち71件が北館等で開催することになった。

引き続き、残る6件の催事の調整を行い、併せて工事期間中に規模縮小を余儀なくされた南北両大展示場の同時利用者に対して改修後の利用を働きかけていく。

成 果 目 標	結 果
令和4年度の調整対象催事112件中90件の日程調整を完了する（経営計画目標）	106件の日程調整完了

<【戦略Ⅱ】大規模コンベンションの共同誘致営業及び展示会の開催推進>

当協会が参加する「MICE連絡会」の参加団体である静岡市、するが企画観光局、静岡県文化財団（グランシップ）とともに、コロナ感染症が落ち着いた令和3年10月より主に訪問による営業活動を再開した。

新規誘致案件は獲得できなかったが、令和元年度から接触している「海洋関連展示会」の主催者を招き、令和4年1月13日に市内のMICE施設（ツインメッセ・グランシップ・日本平ホテル）の視察会及び情報交換会を実施し、当該主催者が静岡でのBtoB展示会開催を目指して検討する運びとなった。

成 果 目 標	結 果
誘致案件を3件確保	新規誘致案件なし

<【戦略Ⅲ】小展示場の利用拡大>

小展示場の利用率向上を目指し、行政、(公財)静岡県産業振興財団などへアプローチし、小展示場利用の営業を進めたが、コロナ感染症の影響により催事開催の目処が立たないといった主催者が多くみられ、利用率は前年度をわずかに上回ったが、目標達成には至らなかった。

一方で、ゲーム、映像などのコンテンツ系イベントの誘致活動を進めたところ、令和4年度に国内では最大規模のオンラインゲーム関連の催事を獲得できたことから、これを弾みにさらに積極的な営業活動を行い、大小展示場の利用拡大に努めていく。

成 果 目 標	結 果
小展示場の利用率 39%以上（経営計画目標）	28.6%
中小企業支援型の「BtoB」型催事を1件誘致（経営計画目標）	誘致なし

<【戦略Ⅳ】ウィズコロナ・ポストコロナ社会への対応>

コロナ感染症の影響で展示会を中止又は延期せざるを得なかった施設利用者に対し、“リアル展示会”の良さを発信しながら、近況の確認を行ったが、現状では、いまだコロナ禍から抜け出せない状況であり、展示会開催に対して慎重になる傾向にあった。

その中で、市に対し、ワクチン接種会場としてのツインメッセの活用を提言したところ、市が集団接種会場として大展示場を利用することとなった。すでに予約していた利用者に対し日程変更の理解を求め調整した結果、7月中旬から11月下旬までと3月に延べ125日間貸出可能となり、地域経済回復への貢献の一端を担うことができたと同時に、キャンセルが続く展示場の有効活用にもつながった。

成 果 目 標	結 果
貸館事業に伴う収入4億円以上を確保する	・ 賃貸料収入 367,951,790 円 ・ 駐車場収入 41,120,660 円 計 409,072,450 円

② 自主事業開催に向けての取組

令和4年度の開催を目指していたモノづくりと子どもを対象にした自主事業の開催については、ツインメッセ静岡開館40周年記念の機会をとらえ、令和3年8月に「地場産業フェスティバル」として、当初の計画から1年前倒しで実施した。

会場では、静岡で作られた地場製品の販売、静岡の味を届ける食料品・お土産物の販売、つくって楽しむワークショップ、職人の仕事を直接学ぶセミナープログラムを実施し、来場者が地場産業をより身近に感じられる場を提供することができた。

※ツインメッセ静岡開館40周年記念事業の詳細は37ページ参照

成 果 目 標	結 果
令和4年8月開催に向けた準備完了 (経営計画目標)	「地場産業フェスティバル」を令和3年8月に開催

③ 広報媒体の活用

ホームページやイベントカレンダー等を活用しイベント情報を発信した。

また、コロナ感染症拡大の状況を反映し、前年度に引き続き、来場者に向けては来館する際の注意喚起を、利用者に向けては安心・安全に催事が開催できるよう「施設利用に関するガイドライン」等をホームページに掲載し、コロナ感染症への対応を図った。

◆イベントカレンダーの配布

- ・発行部数：10,000部（年6回・隔月発行）
- ・設置場所：静岡県庁、静岡市役所、金融機関、静岡県内観光施設等188箇所

(2) 有料駐車場の管理・運営（ツインメッセ静岡）

来場者の利便性を高めるため、有料駐車場の管理運営を行った。

◆収容台数 立体587台・地下175台

◆利用料金 30分毎100円

◆駐車場利用台数

()は前年度

立体駐車場	地下駐車場	計
99,400台 (59,402台)	776台 (481台)	100,176台 (59,883台)

(3) 施設整備・修繕等（ツインメッセ静岡）

故障発生による施設、設備の機能停止に伴う安全性、利便性の低下を未然に防止し、施設を安定的に運営するため「中長期修繕更新計画」に基づき、予防保全的に計画を立てて修繕を実施してきているが、コロナ感染症の影響が長期化していることによる財政状況を考慮し、本年度は3件の実施に絞った。（その他小破修繕は46件実施）

一方、令和4年度に予定されている南館大規模改修については、10月29日に実施設計が完了し、12月20日に「南館耐震補強・大規模改修工事」として工事発注、令和4年2月18日付けで木内・五光特定建設工事共同企業体と工事請負契約を締結した。受注者は5月下旬の工事着手に向け準備を進めている。

また、懸案となっていた財源の確保については、ツインメッセが“産業交流拠点施設”かつ“災害時の広域物資輸送拠点施設”という公益的な役割を担っていることを勘案し、市において、実施設計及び工事費の全額を出資金として拠出することとなった。

	計 画 修 繕
1	西館廻りほか屋外灯取替修繕
2	自動火災報知設備更新第3期修繕
3	駐車場精算機新500円硬貨対応修繕



西館廻り
屋外灯取替修繕
(LED照明に取替え)

自動火災報知設備
更新第3期修繕
(警備員室内の総合盤)



新500円硬貨
対応修繕
(硬貨ユニットの交換)



4 ツインメッセ静岡開館 40 周年記念事業

(1) 地場産業フェスティバル

ツインメッセ静岡開館 40 周年記念事業として、団体設立 50 周年を迎えた静岡特産工業協会と共同で、地場産業の振興を目的とした地場産業フェスティバルを自主事業として開催した。

開催直前の 8 月 8 日に、静岡市にコロナ感染症に係る“まん延防止等重点措置”が発令され開催が危ぶまれたが、職員一丸となり、受付での来場者情報の取得や検温、消毒の徹底をはじめ、会場内の換気や共有スペースの消毒を徹底するなど来場者や出展者等の安心・安全のためコロナ感染症対策に万全を期して開催した。

会場では、静岡で作られた地場製品の販売、静岡の味を届ける食料品・お土産物の販売、つくって楽しむワークショップ、職人の仕事を直接学ぶセミナープログラムを実施し、来場者が地場産業をより身近に感じられる場を提供することができた。

来場者数はコロナ感染症の影響を受け 3 日間で約 3,000 人だったが、出展者アンケートでは、会場内のコロナ感染症対策が「充分できた」「ほぼできた」という回答が 96% あった。また、来場者の反応についても「期待以上だった」「期待どおり」という回答が 72%あり、コロナ感染症の影響で出展の取り止めが一部出たものの、一定の評価を得ることができた。

- ・期 日 令和 3 年 8 月 13 日(金)～15 日(日)
- ・会 場 ツインメッセ静岡 南館大展示場
- ・出展団体 55 団体
- ・来場者数 3,064 人

小学校に配布した
タブロイド紙



ワークショップで
イス作り体験



駿河竹千筋細工
職人による仕事体験

成果目標	結果
セミナープログラム参加者 80 名以上	参加者 55 人

5 組織・人材づくりへの取組

(1) 組織内の人材育成

職員に求められる能力や意欲向上に資する研修の実施や、適材適所の配置などにより、効果的・効率的な各事業の推進及び円滑な事業継承を図ることを目的に、当協会にふさわしい研修体制及び人事評価制度の導入について引き続き検討を行い、令和4年度中の制度構築を目指す。

また、業務能率や利用者サービスの向上を図るため、職員の自発的・積極的な提案を促す「業務改善表彰制度」を3年度から始め、1件の改善提案が提出され表彰された。

成 果 目 標	結 果
研修体制と評価制度の構築 (経営計画目標)	すでに研修計画の策定や人事評価制度の導入を行っている外郭団体の資料を参考に制度内容について検討

(2) 組織内の内部統制

静岡市の政策実現のパートナーとして、業務を遂行していくうえで求められる内部統制機能の充実を図ることを目的に、関連する規程、マニュアル等を見直しを行った。

再整備計画に沿った各種規程等を見直しを継続して行い、令和4年度中の整備完了を目指す。

成 果 目 標	結 果
再整備計画にある本年度分の 各種規程の整備完了 (経営計画目標)	・「職場におけるハラスメントの防止に関する規程」制定 ・「情報公開規程」制定 ・「個人情報保護規程」制定 ・「特定個人情報取扱規程」制定 ・「保有個人データ等開示等取扱要綱」制定 ・「懲戒委員会要綱」制定

6 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

コロナ感染症に関する報道がされ始めた令和2年1月以降、協会ではさまざまな対策を講じてきた。本年度の対応状況は以下のとおりである。

(1) 安全対策

ツインメッセ静岡と産学交流センターでは、利用者が安心して施設を利用できるよう、催事の主催者や来場者、職員等への安全対策を実施した。

	項 目	内 容
①	開催催事への感染防止対策	・施設利用に関するガイドライン（以下「ガイドライン」という）に基づき、主催者と連携して対応 ・会場内の換気を実施 ・飛沫防止用抗菌アクリル板の無料貸出
②	来場者への感染防止対策	・施設内に手洗い等の励行掲示 ・消毒液等の配置 ・ドアノブやエレベータの押しボタンなどのこまめな消毒
③	職員の感染防止対策	・手洗い、うがい、マスク着用の徹底 ・行動記録の作成 ・不要不急の外出を控える ・自身の体調、家族の体調をチェック ・体調が不調になったときの行動制限
④	防疫に関する備蓄品の管理	・消毒液、マスク、防護服等の補充及び在庫管理
⑤	その他対策	・「新型コロナウイルス感染症対策会議」を8回開催 - 緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発令に伴う対応 - ガイドラインの見直し（収容人数制限の緩和等） - 濃厚接触者となったときの職員の行動フロー - 取消料の取扱い 等 検討 （参考：令和2年度23回開催）



飲食コーナーの除菌作業



商談スペースなどで活用された
飛沫防止用抗菌アクリル板

(2) 開催支援対策（ツインメッセ静岡）

貸館事業においては、感染拡大防止対策と社会経済活動の両立を目指し、感染症の予防措置を講じ、安心安全な催事の開催に向け主催者に寄り添い支援してきた。

	項 目	内 容
①	貸出における特例措置の実施	・ 取消料金の免除
②	ガイドラインの改訂	・ 人数制限の緩和等について 11 月 1 日付け改訂
③	チェックシートによる事前の安全対策の確認	・ 具体的な安全対策を確認するための主催者用チェックシートにより、主催者と協会がガイドラインに沿った安全対策を共有し徹底
④	体温計の貸出	・ 来場者検温用の体温計を希望する主催者へ貸出 (非接触型手のひら体温計 5 台、非接触型体温計 5 台)
⑤	飛沫防止用抗菌アクリル板の貸出	・ 商談コーナー、飲食コーナー等に利用できるアクリル板の無料貸出



待機列の距離確保の様子



新型コロナウイルス感染症に係るツインメッセ静岡施設利用に関するガイドライン

(3) ワクチン接種会場としての活用（ツインメッセ静岡）

本市のコロナ感染症拡大防止対策への協力として、市に対しツインメッセの大展示場の活用を提言した。

すでに予約していた利用者にワクチン接種促進の必要性を説明し、理解を得た上で日程調整を行い、7月中旬から11月下旬までと3月に、延べ125日間を「静岡市新型コロナワクチン集団接種会場」として貸し出した。大展示場の空き日については、常に市のワクチン接種推進本部と情報を共有し、効果的な日程を提供した。

※静岡市新型コロナワクチン接種会場使用日数

利用月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	3 月	使用日合計
使用日数	12 日	19 日	30 日	28 日	20 日	16 日	125 日

(4) 主催事業の対応（産学交流センター）

産学交流センターで行われる主催事業においても感染拡大防止に配慮し、セミナー等の多くはオンライン方式で実施した。

対面式での実施に際しては、会場入口での参加者や関係者の検温及び手指消毒の徹底を図った。

	項 目	内 容
①	ビジネスプランコンテスト最終審査会	・オンラインによる発表が2プラン ・審査員は首都圏在住者を見合わせ、県内在住者に限定 ・一般視聴者向けにはオンライン配信
②	創業スタートアップ講座（全6回）	・第1回～3回：対面式 ・第4回：録画配信 ・第5回～6回：オンライン方式（Zoom）
③	ブレイクスルーセミナー・入居者セミナー	・会場参加とオンライン配信のハイブリッド
④	マーケティング支援講座（全12回）	・12回すべてオンライン配信
⑤	おみやプロジェクト成果発表会	・一般向けにはオンライン配信
⑥	産学共同研究委託事業成果発表会	・会場での発表とオンライン配信のハイブリッド
⑦	ちょこっとアフター6勉強会（毎月5回）	・毎回、対面式にて開催 ・コロナ禍を反映して、参加人数は徐々に減少傾向



【ブレイクスルーセミナー（ハイブリッド）】
（会場参加とオンライン配信による開催風景）



【創業スタートアップ講座】
（オンライン方式（Zoom）での開催風景）

(5) 施設利用への影響

① ツインメッセ静岡

コロナ感染症の影響による施設利用のキャンセルは、8月や1月に“まん延防止等重点措置”や“緊急事態宣言”が発令されたことにより、平均して月10件程度発生した。その結果、令和3年度は133件のキャンセルがあったが、前年度（258件）からは半減したことで、使用申込件数は658件となり、前年度（647件）を上回った。

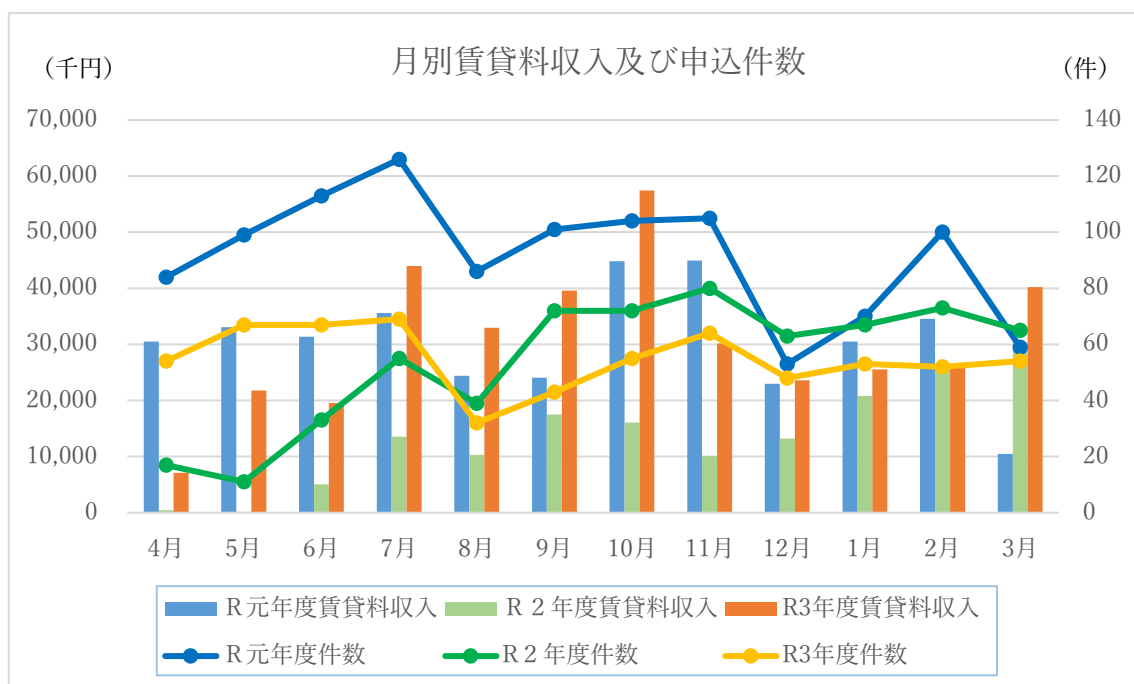
また、賃貸料収入については、キャンセルに伴う135,660千円（使用時見込額）の損失があったものの、7月中旬から11月下旬までと3月に、延べ125日間、「静岡市新型コロナワクチン集団接種会場」としての大展示場の利用があったことなどにより、令和3年度は367,951千円となり、前年度（163,696千円）に比べ約2億円の大幅な増加となった。

さらに、各催事の上限人数が緩和されたことで、年間来場者数は357,954人となり、前年度（163,558人）から倍増した。

【展示場・会議室のキャンセル（取消）状況と貸館収入の影響額（使用時見込額）】

		大展示場	小展示場	会議室	合計
令和3年度	取消件数（件）	69	37	27	133
	使用時見込額（千円）	126,037	8,611	1,012	135,660

【令和元年度・2年度・3年度 各月の状況】



② 静岡市産学交流センター

産学交流センターの会議室利用については、8月から9月にかけてのコロナ感染症に係る“まん延防止等重点措置”及び“緊急事態宣言”の発令に基づき、利用時間を20時まで短縮するとともに、利用人数も定員の50%を上限とし、キャンセルの場合は利用料を全額還付するよう静岡市から通知があった。

また、1月から3月にかけての“まん延防止等重点措置”の発令に際しては、利用時間の短縮はなかったものの、利用人数は定員の50%を上限とし、キャンセルの場合は利用料を全額還付するよう静岡市から通知があった。

令和3年度の会議室のキャンセル件数と還付金額は、それぞれ100件、約92万円となったが、いずれも前年度の207件、約168万円を下回った。

また、7月から市による大会議室の連続使用もあり、令和3年度の施設使用料収入は約2,096万円となり、前年度（1,877万円）に比べ増加した。

【会議室のキャンセル（取消）状況と使用料収入の影響額（還付額）】

		会議室
令和3年度	取消件数（件）	100
	使用料還付額（円）	922,210

（参考） コロナ感染症に係る「緊急事態宣言」発令等の状況

【国】＝国内状況・政府等、【市】＝静岡市、【世】＝世界情勢

- 【国】・4/ 5 宮城、大阪、兵庫に「まん延防止等重点措置」を初めて適用
- ・4/25 東京、京都、大阪、兵庫の「緊急事態宣言」を発令（3回目）
 - ・6/21 9都道府県の「緊急事態宣言」を解除
 - ・7/12 東京の「緊急事態宣言」を発令（4回目）
 - ・8/ 6 国内の累計感染者数が100万人を超えた
 - ・8/ 8 静岡など8県が「まん延防止等重点措置」の適用地域に加わる
 - ・8/20 茨城、栃木、群馬、静岡、京都、兵庫、福岡に「緊急事態宣言」を拡大
 - ・10/1 「緊急事態宣言」（19都道府県）と「まん延防止」（8県）をすべて解除
 - ・1/27 静岡、大阪など18道府県に「まん延防止等重点措置」適用
 - ・2/28 国内の累計感染者数が500万人を超えた
 - ・3/22 「まん延防止等重点措置」を全面解除、全国で適用なしは1/8以来
- 【市】・4/30 85歳以上の高齢者に接種券発送、5/10 受付開始、5/24 接種開始
- ・6/ 7 高齢者のワクチンの大規模接種会場としてツインメッセを活用する方針を出す
 - ・7/ 1 64歳以下のワクチン接種を8/12からツインメッセなどで始めると発表
- 【世】・2/ 8 感染者数が世界全体で4億人を超えた

7 理事会・評議員会

(1) 理事会

開催年月日	議 題	審議 結果
R3. 4. 1 (決議の省略)	<審議事項> 公益財団法人静岡産業振興協会理事長及び副理事長の選任について	可決
R3. 6. 1 (定 時)	<審議事項> (1) 令和2年度公益財団法人静岡産業振興協会事業報告及び決算の承認について (2) 定時評議員会の招集について <報告事項> 令和2年度資金運用状況の報告について	可決 可決
R3. 6. 18 (決議の省略)	<審議事項> 公益財団法人静岡産業振興協会理事長及び副理事長の選任について	可決
R3. 12. 13～ R4. 1. 26	<持ち回りによる運営状況の報告> 令和3年度公益財団法人静岡産業振興協会運営状況中間報告について	
R4. 3. 22 (定 時)	<報告事項> 理事長及び副理事長の職務執行状況について <審議事項> (1) 令和4年度公益財団法人静岡産業振興協会事業計画について (2) 令和4年度公益財団法人静岡産業振興協会予算について (3) 令和4年度公益財団法人静岡産業振興協会資金運用方針について (4) 公益財団法人静岡産業振興協会個人情報保護規程の制定について (5) 公益財団法人静岡産業振興協会特定個人情報取扱規程の制定について (6) 公益財団法人静岡産業振興協会情報公開規程の制定について (7) 公益財団法人静岡産業振興協会職場におけるハラスメントの防止に関する規程の制定について	可決 可決 可決 可決 可決 可決 可決

(2) 評議員会

開催年月日	議 題	審議 結果
R3. 5. 27 (決議の省略)	< 審議事項 > (1) 公益財団法人静岡産業振興協会評議員の選任について (2) 公益財団法人静岡産業振興協会理事の選任について	可決 可決
R3. 6. 18 (定 時)	< 審議事項 > (1) 令和 2 年度公益財団法人静岡産業振興協会決算の承認について (2) 任期満了に伴う理事の選任について (3) 任期満了に伴う監事の選任について (4) 任期満了に伴う評議員の選任について < 報告事項 > 令和 2 年度公益財団法人静岡産業振興協会事業報告について	承認 可決 可決 可決
R4. 3. 31 (決議の省略)	< 審議事項 > (1) 公益財団法人静岡産業振興協会理事の選任について (2) 公益財団法人静岡産業振興協会評議員の選任について	可決 可決

参考資料

◇ 展示場の利用状況

大展示場では、利用件数は前年度と比較して 30 件増加し、利用日数も、178 日増加した。

これにより利用率は 24.9 ポイント増加し 53.9%となった。

※利用率＝使用日数÷（365-休館日数）

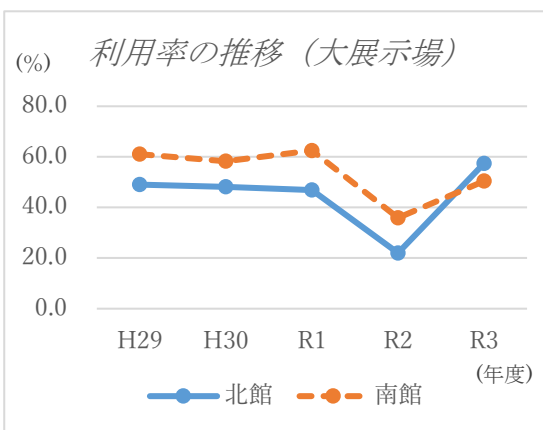
小展示場では、利用件数は前年度と比較して 37 件増加し、利用日数も 80 日の増加となった。これにより、利用率も 5.6 ポイント増加し、28.6%となった。

① 利用件数・利用日数・利用率

<大展示場>

()は前年度

	北 館	南 館	計
件 数	44 (40)	87 (61)	131 (101)
日 数	206 (79)	181 (129)	387 (208)
利用率 (%)	57.4 (22.0)	50.4 (35.9)	53.9 (29.0)



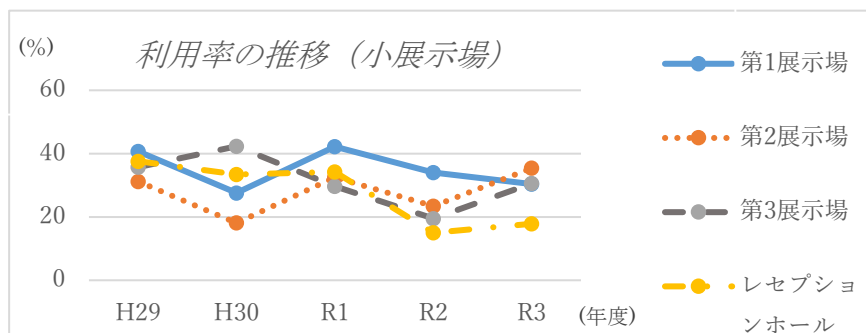
※休館日：12/29～1/3

<小展示場>

()は前年度

	第 1	第 2	第 3	レセプション ホール	計
件 数	52 (46)	29 (23)	53 (33)	31 (26)	165 (128)
日 数	109 (122)	127 (84)	110 (70)	64 (54)	410 (330)
利用率 (%)	30.4 (34.0)	35.4 (23.4)	30.6 (19.5)	17.8 (15.0)	28.6 (23.0)

※休館日：12/29～1/3

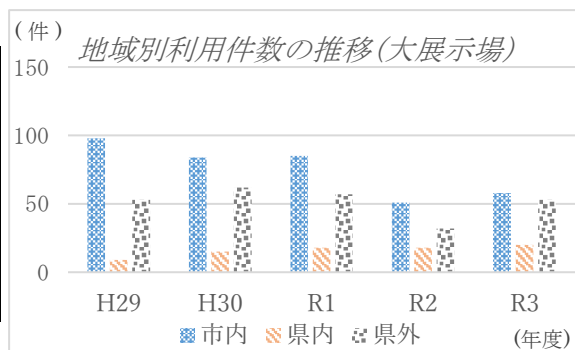


② 地域別利用状況

<大展示場>

()は前年度

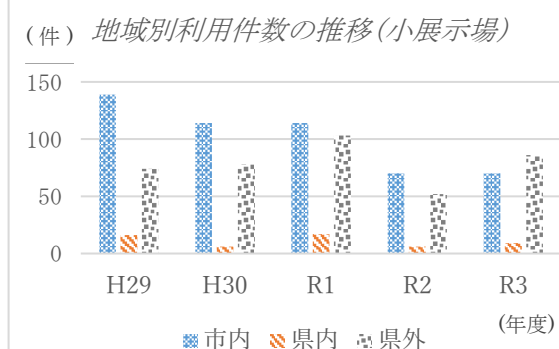
	市 内	県 内	県 外	計
件 数	58 (51)	20 (18)	53 (32)	131 (101)
割 合 (%)	44.3 (50.5)	15.3 (17.8)	40.4 (31.7)	100 (100)



<小展示場>

()は前年度

	市 内	県 内	県 外	計
件 数	70 (70)	9 (6)	86 (52)	165 (128)
割 合 (%)	42.4 (54.7)	5.5 (4.7)	52.1 (40.6)	100 (100)

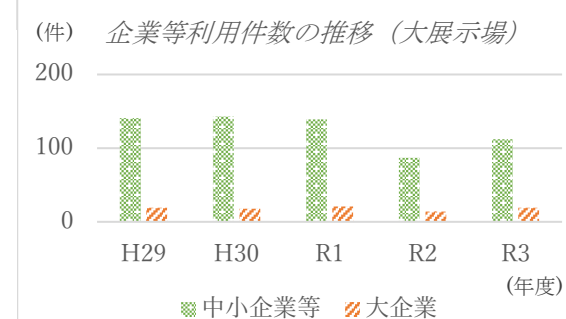


③ 企業等規模別利用状況

<大展示場>

()は前年度

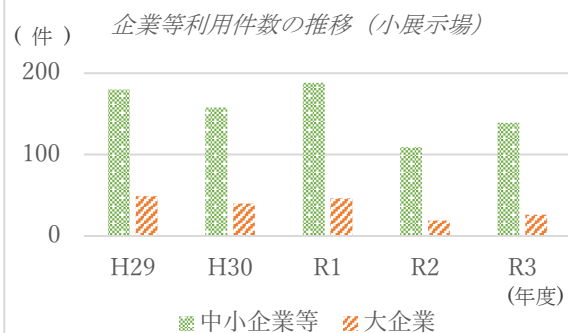
	中小企業等	大企業	計
件 数	112 (87)	19 (14)	131 (101)
割 合 (%)	85.5 (86.1)	14.5 (13.9)	100 (100)



<小展示場>

()は前年度

	中小企業等	大企業	計
件 数	139 (109)	26 (19)	165 (128)
割 合 (%)	84.2 (85.2)	15.8 (14.8)	100 (100)



④ 業種別利用状況

単位：件 ※（ ）は前年度

業 種	大 展 示 場			小 展 示 場					合 計
	北館	南館	小計	第 1	第 2	第 3	レセ ブ	小計	
農林水産・食品等	2	2	4(1)	1	0	1	0	2(3)	6(4)
産業機械・精密機械	1	4	5(2)	1	1	0	0	2(1)	7(3)
建築・住宅・資材	5	14	19(15)	8	1	8	8	25(17)	44(32)
医療・福祉・美容	9	11	20(13)	24	7	11	4	46(34)	66(47)
家具・雛具・仏壇等	0	2	2(0)	1	2	5	0	8(4)	10(4)
交通・車両・運輸	4	2	6(8)	0	0	0	0	0(1)	6(9)
家 電	1	2	3(1)	0	0	0	0	0(1)	3(2)
システム・OA・ソリューション	0	1	1(1)	0	0	1	1	2(0)	3(1)
情報・通信・映像	1	0	1(0)	0	0	0	0	0(1)	1(1)
物流・商社・店舗	9	14	23(29)	2	2	4	6	14(11)	37(40)
衣料・呉服・宝飾等	0	1	1(2)	4	3	2	4	13(10)	14(12)
スポーツ用品	0	1	1(1)	0	0	3	1	4(3)	5(4)
家庭雑貨・文具	0	0	0(0)	0	1	0	0	1(2)	1(2)
文化メディア・マスコミ	0	0	0(1)	1	4	3	2	10(9)	10(10)
趣味・娯楽・ペット・プラモデル	5	15	20(13)	4	0	0	0	4(2)	24(15)
行 政	3	5	8(4)	1	2	2	0	5(4)	13(8)
学校・教育	4	9	13(7)	2	4	5	5	16(18)	29(25)
その他	0	4	4(3)	3	2	8	0	13(7)	17(10)
合 計	44	87	131(101)	52	29	53	31	165(128)	296(229)

◇ 会議室の利用状況

会議室の利用のうち中央棟会議室では、コロナ感染症対策による使用制限等により、会議室9室の利用日数の合計は1,598日であり、前年度1,461日に比べ137日増加し、利用率は4.2ポイント増加し、49.4%となった。

※利用率＝使用日数÷（365－休館日数）

西館会議室は、静岡市体育協会、静岡技能協会の事務所使用により、引き続き年間を通して貸与した。

<中央棟>

()は前年度

会議室	401	402	403	404	405	406	407	408	409	計
日 数	167 (154)	167 (160)	167 (160)	231 (204)	229 (206)	154 (176)	157 (177)	216 (197)	110 (27)	1,598 (1,461)
利用率 (%)	46.5 (42.9)	46.5 (44.6)	46.5 (44.6)	64.3 (56.8)	63.8 (57.4)	42.9 (49.0)	43.7 (49.3)	60.2 (54.9)	30.6 (7.5)	49.4 (45.2)

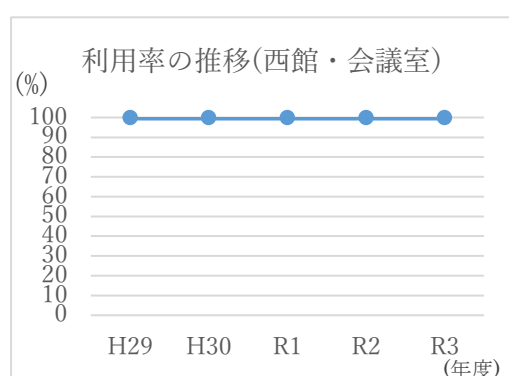
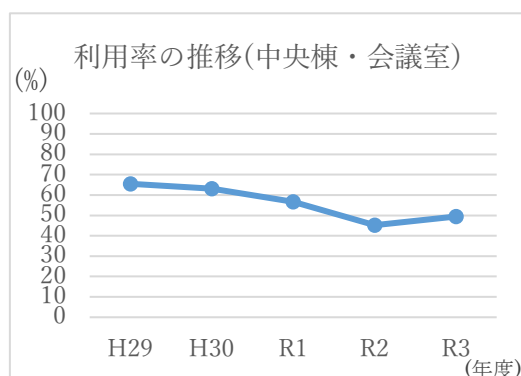
※休館日：12/29～1/3

<西 館>

()は前年度

会議室	201	202	203	計
日 数	359 (359)	359 (359)	359 (359)	1,077 (1,077)
利用率 (%)	100 (100)	100 (100)	100 (100)	100 (100)

※休館日：12/29～1/3

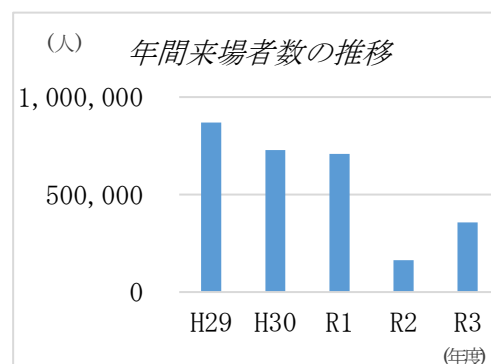


◇ 年間来場者数

ツインメッセ静岡の年間来場者数は、催事開催が戻りつつあったが、感染症対策として参加人数の上限を設けた事もあり前年度と比較して194,396人増加し357,954人となった。

・年間来場者数 ※()は前年度

357,954人(163,558人)



◇ 組織構成

(1) 役員 [R4. 3. 31 現在] () は前年度

理 事	評議員	監 事	計
10 人 (10 人)	8 人 (8 人)	2 人 (2 人)	20 人 (20 人)

(2) 事務局 [R4. 3. 31 現在] () は前年度

職員数 31 人(31 人)

◆内訳：事務局長 1 (1) 課長 3 (2) 担当課長 0 (1) 参事 5 (5)
 センター長兼プロジェクトマネージャー 1 (1) 主幹 2 (2) 副主幹 3 (2) 主任 4 (4)
 主事 1 (2) 嘱託 7 (7) 非常勤 4 (4)

